

東北教区報 2025年12月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

東北教区の信徒・聖職の皆様には主の御降誕のお祝いを申し上げます。

福島県いわき市で生まれ、弘前、盛岡、仙台と大学卒業まで東北教区の皆様には大変お世話になりました。各地で信仰生活をご一緒したこと

を大変懐かし

く思い出して

おります。今、

チーム北国と

して二教区の

宣教協働と新

教区設立に向

けて再びご一

緒しておりま

すこと、また

初めての「あ

けぼの」への寄

稿を通して東

北教区の皆様

とお近づきの

機会を得てお

りますことをとても嬉しく

思っております。

さて、クリスマスと聞くと

びに、いつも思い出すことが

あります。それは40年ほど前、

難民や移住労働者を支援する

集会で用いられた「イエスは

クリスマスメッセージ

北海道教区主教 主教 マリア・グレイス 笹森 田鶴

避難民だった」という言葉です。このタイトルが思い起こさせるのは、生まれたときから苦難の旅を続けられたキリストの姿です。

マタイによる福音書によると、ベツレヘムで主イエスがお生まれになったとき、東方から博士たちが来て、ユダヤ人の王として生まれた方の居



場所を尋ねました。それを聞いたヘロデ王は不安を覚え、学者たちを集めて調べさせ、博士たちをベツレヘムへと送り出します。博士たちは星に導かれて幼子イエスの家にとどき、礼拝をささげますが、ヘロデのもとへは戻らず、別の道を通って自国へ帰りま

した。その頃、ヨセフは夢で「ヘロデが幼子を殺そうとしている」とのお告げを受けます。ヨセフは夜のうちにマリアと幼子連れ、エジプトへと逃れました。

ベツレヘムからガザを経てエジプトに至る道のりは、およそ400キロ以上。産後間もない母と幼子との旅は、命がけの旅だったに違いありません。当時エジプトはローマの属州でしたから、厳密には国境を越えるわけではありませんが、3人にとってそれは「命をつなぐための避難」でした。

やがて博士たちに裏切られたことを知ったヘロデ王は激怒し、ベツレヘムとその周辺にいる2歳以下の男の子を一人残らず殺すよう命じました。マタイは、この惨劇を預言者エレミヤの言葉でこう記しています。

「ラマで声が聞こえた。激しく泣き、嘆く声が。ラケルはその子らのゆえに泣き、慰められることを拒んだ。子らがもういないのだから。」

ラマはヤコブの妻ラケルの墓のある場所です。エレミヤ

は、捕虜としてバビロンへ連れて行かれる人々を、墓の中からラケルが泣き叫びながら見ている姿として描きました。マタイは、このラケルの涙を、ヘロデ王に子どもを奪われた母たちの嘆きと重ねます。そして、殺された子どもたちと主イエスは、決して遠い存在ではなかったはずです。

主イエスは、命からがら家を飛び出し、わずかな荷を抱えて逃げ惑う人々の中におられます。

主イエスは、権力者の都合によって命を奪われる人々の中におられます。

主イエスは、子を失い、悲しみに泣き叫ぶ母たちの腕の中におられます。

クリスマスの物語は、今も世界の至るところで――とりわけ、その物語の舞台であったパレスチナの地において――逃げ惑い、殺されていく人々の中にキリストがおられることを、私たちに静かに告げ知らせています。クリスマスとは、

遠い過去の出来事を祝う日ではなく、いまも苦しむ人々のうちにおられる主の声に耳を

傾ける日です。

2025日本聖公会人権セミナーに参加して

教区人権担当 マタイ 山崎 薫

「アルペなんみんセンター」についてご存じの方は少ないのではないだろうか？私は今回の研修で初めて知った。鎌倉の山間地区にある元イエズス会修道院を借り受け、「NPO法人アルペなんみんセンター」は2020年4月から難民のシェルター(30室)を整え支援を行っている。衣食住、医療支援、日本語学習支援、地域住民との交流や様々な啓発活動など多岐に亘った取り組みを行っている。その働きが高く評価され神奈川県弁護士会人権賞を受賞している。同法人の地道な働きかけで国連難民高等弁務官事務所が関与している「難民を支える自治体ネットワーク」へ鎌倉市と神奈川県が参加している。利用者のフローリムさん(旧ユーゴスラビア出身)のお話があった。内戦により本人の目の前で両親が殺害され、身の安全のためブローカーを通して日本へ辿り着いた。酷な体験からPTSDを患い診

療を続けながら生活している。24年前に来日し難民申請を行うが認められず入管収容所で長く過ごし、その後は無国籍難民として「仮放免」という立場で暮らしている。「仮放免」は就労が認められず、社会保障に加入できず、移動制限があり、県外へ行くにも事前に届け出なければならない。とても縛りが厳しい。人権が保障されていない立場、まして異国でどれほど辛いことか。先進国の中でも日本の難民認定は厳しく1%以下と伺った。同じ命、人権の扱いが違う。衝撃を受け考えさせられた。企画の横浜教区に感謝。



「秋のTEEN'S芋煮会」開催

10月11日(土)に秋の「TEEN'S芋煮会」を開催しました。当日は芋煮の調理や、おにぎりを握ったりと、皆で協力してご飯を作って食べた他、様々なレクリエーションを行い、楽しい時間を過ごすことができました。

当初キャンプ場での開催を予定していましたが、熊出没の恐れと雨天から会場を変更しました。会場を早く提供してくださった仙台基督教教会、そして協力とお祈りをくださった全ての人に感謝いたします。(青少年活動推進グループ リーダー 司祭 渡部 拓)

参加者の感想

家で芋煮を作ることも食べることもないので、毎年会場に来て、年に1回芋煮を作ってみないと食べたがりゲームをしたりしに来たいなと思いました。会話することで成立するゲームは来た人を覚えられし仲良くなれるので楽し

かったです。

(仙台基督教教会 高村乃望)

いもに会をやって楽しかったことをまとめました。

教会で料理なんてしないので、しんせんでおもしろかったです。

あまりやるきがない人とゲームができて嬉しかったです。来年もいきたい…。

(仙台基督教教会 高村直緒)

僕は、仙台基督教教会で芋煮会をしに行きました。作っているときは、少し大変なところがあったけどうまく作れました。できあがった芋煮を食べたら芋が柔らかくてすごく美味しかったです。このようなイベントがあったらまた行きたいです。

(盛岡聖公会 越山満優)



1879年、ジョン・バチラー師が平取を訪問、宣教活動が始まる。1949年、理事長上田一良主教、園長横田氏によりバチラー保育園開園。大友正幸司祭が園長の時に園舎新築のためバザー等を実施、新園舎落成となる。沢山の子どもたちが巣立っていき、50年が過ぎた。建物の老朽化に伴い園舎を建て替え、2023年認定こども園として新たにスタート。これからはバチラー師の60有余年に亘る北海道での働きに学び「愛ある保育」を大切に幼児教育に取り組んでいけたらと願っている。



バチラー保育園



シリーズ
わたしの道の光

「野の花」のこと

盛岡聖公会

ルチャ 磯崎みゆき



「人の日々は草のよう、野の花のように咲く」は詩編103編15節にある言葉です。人生の儚さや、野の花のように短い命を表現しています。

16年程仁王幼稚園のパート職員です。掃除も担当。3シートズン雑草抜きで草と対峙し「野の草」は実に身近です。春夏にはアカツメクサや白いドクダミを飾ります。花鉢や花壇がさかんに咲けば花がら取りも。草花に触れて働くとき、この節を誦（よ）むることしばしばです。園庭のカタクリが芽吹かなくなり、今は場所も判らない時、詩編はこう続きます。「風が吹けば消え失せ生えていた所を知る者もなくなる」静かに寂しい終わり方です。

さてこれとは別に、マタイ福音書にも野の草が登場します。「明日は畑に投げ込まれる野の草」6章30節。鑑賞される選ばれた花でない燃料用でも、神様の養いと配慮が、「このように装ってくださる」という部分です。

このふたつを併せ味わうならば「野の花」は『儚い人生であると同時にその短い生涯の中で、力強く咲き、美しく生き得ることをも示唆している』となるでしょう。短命の例えだけではない含蓄は、年かさになるとともに感じるものかもしれません。

ここで、私にも備えられている咲く時や美について自覚できるのかが問いになります。足元の今出来るコト持っているモノに着目することで、「感謝」には思い至ると思っています。私でいえば、園児から「お花カワイイ」「お掃除いつもありがとう」「お世話してるのキレイ」と話しかけられる時、それは神様の祝福の声のようで、幸福な瞬間です。しかもフレッシュに毎年別な子から貰うのです。幼子の言葉も歓声も尊く、創立

来110年超の間、先輩方もここで同じ心地を味わったのだと感慨深く、草取りにも、手入れや受け継いだ花器にも感謝の心が生まれます。決して感激ばかりしているわけではありませんが、営々とした働きに私も繋がり、置かれた場所です。感謝して日常をすごすことは、小さな「美」かもしれないと思うのです。

ささやかな、教会・幼稚園の庭からの想起です。先日は90歳代の先輩から、園庭に防空壕があったと伺いました。今のように花ではなく、可食植物栽培であったかもしれない。語り伝え憶え継ぎたい話で、ここに記せたこれも役目の一つかと思えてきます。

いまは本当に目まぐるしく移り変わる世の中ですし、加齢も迫り来て、すぐに忘れ去られそうな小さな自分を思えば正直寂しい。それは消え失せ儚い「野の花」そのものでしょうか。しかし、定められて咲く、咲く時には人を爽やかにする「野の花」のように、みずみずしくひたむきに生きられたなら、と希望し歩んでまいります。

ミニフェスティバル in 盛岡

東北教区婦人会 会長 ソフィア 赤坂 康子

10月18日(土)盛岡聖公会礼拝堂、仁王幼稚園にて東北教区婦人会主催「ミニフェスティバル」を開催しました。参加者の皆さまが楽しめる集まりを計画し、教区の各教会の皆さまにご案内しました。参加者は40名程、11時の礼拝

に続き、婦人会が感謝箱献金で支援している「釜石支援センター望」の海老原祐治さんのお話を伺いました。東日本大震災から14年半。釜石の被災者に寄り添い続け、地域のコミュニティの形成に携わっていらした実体験からの海老原

さんのお話は、最後まで聞き入ってしまう内容でした。コミュニティ形成のノウハウは教会の仲間づくりと似ているとのこと。サロンやイベントは被災者の回復力を促すこと、そのための工夫をいろいろとなされています。3月で復興庁の予算が終了し、財政



難で支援が半分程減となったそうです。地域の方々に期待され必要とされているのに、現実の厳しさを思います。愛餐会では皆でお弁当をいただき、ミニバザーを楽しみました。お茶餅、パン、ケーキ、漬物等、食品がやはり一番人気でした。仙台からは可愛い手作り品や装飾品が出されていました。ご協力をありがとうございました。午後2時からコンサート。何と、前日まで美しい音色を奏でていた教会自慢のオルガンの音が急に出なくなる緊急事態となりましたが、電子ピアノで対応。聖歌隊の歌声はいつにも増して礼拝堂に響き、チャペルコンサートの素晴らしさに感動し温かい思いに包まれての終了となりました。



松丘聖ミカエル教会

コロナ禍で訪問禁止になっていた松丘聖ミカエル教会。青森聖アンデレ教会の教会委員会で李賛熙司祭が提案され、9月30日、6年ぶりに訪問が再開されました。長谷川清純主教もご賛同くださり、主教巡回となりました。

鍵を開けると以前のままの礼拝堂があり、先客のカメモシの集団が数え切れないほど横たわっていました。皆で掃除をして、その後祈りが献げられました。仙台から長谷川主教夫妻、八戸、弘前、青森の信徒と入園の方一名が、星になった方々を思いながら心一つに祈りました。長谷川主教は説教で、ミカエル教会の歴史や「生かされている命に感謝して今日を生きる、それが今ここにある天国」ということをお話しになりました。ここに集められた私たちの中にイエス様が共にいることを実

感する時間となり、以前管理牧師と青森信徒で訪問した時のことを思い出していました。15年程前、その頃礼拝のオルガニストは入園者の故藤崎睦安さんでした。不自由な手で奏でる聖歌は魂に触れるほど素晴らしく、導かれて私も奉仕させていただきました。入園者の神さんは声量とテンポでリードしてくれ、毎回身が引き締まりました。イースターやクリスマスには入園者の方々と交流や会食をし、賑やかでした。特に手作りの「筋子おにぎり」は絶品でした。入園者の方と一緒に見た満開の桜、その桜の秋の鮮やかな紅葉、教会の裏の小菊をとって祭壇に飾ったことなどが、走馬灯のようにかけめぐりました。使っていた鍋や食器布巾などが、当時の情景を物語ってくれました。追想。

(青森聖アンデレ教会信徒)

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

2025年の活動概要について報告します。
3月11日、震災を覚え祈り続けるという当プロジェクト

の使命でもある「東日本大震災14周年記念礼拝・講演会」(説教 長谷川清純主教、講演 島田明夫東北大名誉教授)を開催しました。

地域支援活動として、毎月1回「水曜喫茶支援」(原則第2水曜日、11月に年一回の「広畑お茶会」を開催しました。それぞれの集まりでは、スタッフは力量不足を感じつつも、皆さんのお話を良く聴くことに努めています。当事者の立場を考え、どのようなより添いが出来るのかを思いながら、集まって話すことの大事さを尊重しています。残念ながら今年は猛暑のため8月の水曜喫茶は休会としましたが、平均4名ほどの利用があります。毎回、多くの方々との交わり、差し入れをいただいた諸団体、個人の方々に深く感謝しながら活動を続けています。

来年度もお支えくださるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(リーダー 浅原 和裕)

常置委員会報告 (第12回・10月8日)

報告事項▼主教報告…義母の

埋葬のため、10月21日から10月23日まで休暇を取る。

協議事項▼第11回常置委員会において承認していた福島聖ステパノ教会からの、礼拝堂床修繕に伴う宣教強化資金運用グループへの融資申請について、福島聖ステパノ教会より新たな返済計画が提出されたので、改めて承認した。▼「教役者給与規程」の一部改正案を承認した。▼2026年度教区一般会計収支予算案および各教会分担金案について承認した。▼第110(定期)教区会上程議案内容について確認を行った。

12月逝去者記念聖餐式

12月3日(水) 午前10時30分、
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

司祭 アタナシオ 笹森 伸兒
2019年12月1日逝去
宣教師 Miss Ethel H. Correll
1920年12月5日逝去
司祭 イザヤ 櫻井 享

2010年12月6日逝去
伝道師 ヨハネ 土田 八九十
1924年12月8日逝去
司祭 ヤコブ 木村 光一
1979年12月9日逝去

宣教師 Miss Anna Theodora Wall
1917年12月12日逝去
司祭 John Cary Ambler
1946年12月13日逝去
主教 テモテ 中村 信蔵
1969年12月16日逝去

司祭 Frank Hazlett Jr. Moss
1963年12月19日逝去
司祭 近重 利澄
1934年12月22日逝去

司祭 コルネリオ 斎藤 雄一
2017年12月22日逝去
司祭 片田 篤五郎
1956年12月24日逝去

主教 ウイリアム 村上 達夫
2016年12月28日逝去
司祭 ステパノ 大矢 敬香
1942年12月30日逝去

司祭 ステパノ 奥村 亮
1948年12月31日逝去
司祭 ヨハネ 桜井 健
1979年12月31日逝去

2025 耳を傾けようキャンペーン

神のみ声に、人々の声に、
そして世界の声に耳を傾けよう
〜となりびととなるために〜